

# 花 き

## 実 況

### 1 キク

奥越は、昨年12月14日に「奥越地域キク生産者研修会」が開催され、47名の生産者が参加した（写真1）。

秋植えギクは積雪が45cm（大野市富田、1月20日現在）程度で、例年より消雪が早い見込み。夏秋ギク親株の古枝切りは11月、冬至芽摘心作業は1月中旬から実施されており、1月上中旬で大部分の株が終了した。

坂井では夏秋ギク親株の冬至芽摘心は行わず、トンネル被覆が行われた。あわら市の寒菊は、1月まで断続的に出荷された。

福井では、夏秋ギク親株の冬至芽摘心作業を1月上旬から実施している（福井市北部、南部）。

丹南では、夏秋ギク親株の冬至芽摘心作業を1月上旬から実施している。

二州、若狭においても夏秋ギク親株の冬至芽摘心を1月中旬から行っている。



写真1 キク生産者研修会

### 2 スイセン

スイセンの出荷ピークは12月上旬となり、年末の需要期には日量2万本（昨年同時期4万本）くらいの出荷になった。1月中旬には日量1万本程度になった。1月からは水仙まつりが各地で開催された。

出荷できる切り前の物が圃場にまばらに残っているが、収穫に時間がかかる状態になっている。1月下旬には寒波の到来と積雪によって倒伏し、出荷は少なくなった。

### 3 ユリ

春江のオリエンタルは無加温2重ハウスで栽培された「マーロン」が出荷された。年末出しの「カサブランカ」、「シンプロン」のLAユリは一部収穫できず切残しがある。

あわら市の「リリブライトレッド」は11～12月に抑制作型があるが、一部のハウスで強風により被覆フィルムがはがれた。1,000本程度収穫されたが、全体的に細かった。刈り込んで球根養成に移行する。

福井市の「リリブライトレッド」約1万球が11月下旬から定植され、草丈は10cm前後である。丹南地区は、10月～12月に定植された「レッド」が3,000球栽培中（1月20日調査）。

### 4 ストック

坂井のアイアンシリーズ等が、福井、関西市場へ出荷されているが、開花が早く、8月26日直播ものでほぼ1月で終了する見込みである。関西市場では12月29日まで出荷した。

南越のカルテットシリーズの9月上～中旬播種が、現在開花始めである。9月中旬播種は、昨年同様60～70cmでピンチを年末に行った（1月20日調査、昨年1月8日調査）。

若狭では11月中旬日定植のアイアンシリーズが草丈18cm、葉数15枚、12月上旬定植のカルテットシリーズが草丈15cm、葉数13枚となっている（1月22日調査）。

## 5 その他

福井南部、永平寺のハボタンは、11月20日に目揃い会が実施され、11月30日から12月28日まで出荷された。本年は昨年と比べ、定植時期がやや早く、草丈がやや長く、防除の励行によって虫害も少なかった。秋冷が遅く葉の色づきが遅かったが、年末需要の高まりで、出荷も順調で2万本を超える出荷量になった。

福井のトルコギキョウでは8月咲の作型で、播種が12月中旬開始された。南越は、昨年同様12月上旬に定植された。

あわら市のトルコギキョウは、マリア系統が8月中下旬に定植され、台刈りが行われている。12月に一部が金沢へ出荷された。

若狭のトルコギキョウは、1月下旬に定植されている。

## 対 策

### 1 8、9月咲きギクの親株管理と採穂

1) 8月咲きの山手白などの場合、1月下旬から2月上旬にかけて、地際部より2~3cm(葉3、4枚)を残して冬至芽の摘芯を行う。芽立ちのよい品種では地際部で、芽立ちの悪い品種は地際からやや上がった部位で一斉に摘心(刈り込み)する。

2) 挿し穂は摘心をしないで冬至芽をそのまま利用すると、心止まり症状や生育開花が不揃いとなる。また、夏ギクは親株時に高温に遭遇すると挿し穂苗の開花が早まる場合があるため、ハウス内が高温にならないように換気を行う。

### 3) 作業時期目安

作 型	定植日	仮植期間	挿し芽日	冬至芽摘心日
仮植育苗の 8月咲きギク	4/15	3/25~4/14 摘心4/1~4/5	3/11 15℃温床育苗	1/25~2/ 5
8月咲きギク	4/15	—	3/26	2/ 5~2/15
9月咲きギク	5/15	—	4/30	3/10~3/20

※仮植育苗は8月咲きの山手白、広島紅、夏晴等の旧盆に間に合わない品種に利用する。

4) 採穂が挿し芽適期より早い場合は0~2℃で貯蔵する。貯蔵する場合は、採穂2、3日前にダコニール1000の1,000倍希釈液を親株に散布する。

5) 採った穂は調整後に日の当たらない納屋等で広げて乾かす(採穂時の70~80%の水分含量、少し萎えた程度とする)。乾いていないと冷蔵中に穂の曲がりや腐敗が多くなる。

6) 穂を冷蔵する場合は冷蔵前に穂を調整し、切り口を下にして並べておく。

穂は乾いた新聞紙に包み、切り口を下にして、30×40cmのポリ袋に200本程度ゆったりとして入れる。完全に密封せず、切り口を下にしてダンボール箱に詰めて貯蔵する。袋の中が蒸れている場合は、乾いた新聞紙を入れ水分調整を行い、3~4日後に新聞紙を取り出す。挿し穂は、冷蔵後挿し芽時まで切り口をそのまま下にしておく。

### 2 親株の病虫害防除

1) 苗による本圃への病虫害の持込みを防ぐため、病虫害の防除を徹底する。

2) 新芽の伸長が始まってからは、週1回の防除を励行するとともに、晴れた日には十分に換気し、白さび病等の病害発生を抑制する。

3) 散布は晴れた日に行い、夜間までに植物体に散布した薬液が乾燥していることがのぞましい。

4) 床と通路へのモミガラマルチにより、土壤水分を保持し、灌水回数を減らす。

白さび病が発生していない親株は、ジマンダイセンフロアブルやコロナフロアブル、ステンレス等を週1回定期散布する。発病している場合は、病斑（冬孢子堆）のついた葉を取り除いてからサプロール乳剤(EBI)、チルト乳剤25(EBI)、ラリー乳剤(EBI)、ピリカット乳剤、ストロビーフロアブル等の治療剤を散布する。感受性が低くなった（効果が低くなった）薬剤は使用しない。また、効果がある薬剤であっても、同系統剤の連用で効果が低下しないように、異なる系統剤をローテーションで散布し、同じ薬剤や同系統剤をしばらく使用しない。

5) 親株搬入時に黒さび病がみられた場合は、罹病葉を除去し、ステンレス等を早い時期に散布する。摘心後の新茎葉への感染を抑制するため、新シュートが出始めたステージ以降、週1回程度で予防剤を散布する。



写真2 親株についた黒さび病

### 3 トルコギキョウの育苗管理

- 1) 播種から子葉展開後まではしっかり灌水する。本葉が展開するまでは、乾燥させないようにする。
- 2) 晴天時は乾燥しやすいので、ミスト灌水の場合はこまめに散水し、用土表面の乾燥に注意する。底面給水では、過湿になりすぎないように、過剰な水を排水できるようにしておく。灌水は日中の暖かいときに行い、冷たい水を灌水して根を冷やさないようにする。
- 3) 空中湿度が低いと苗（葉）がなかなか大きくなる。温風暖房機等で加温している場合は、床への灌水等により湿度を保つように工夫する。
- 4) 発芽後、本葉が重なると軟弱徒長や病害の原因になるので、苗の生育状態に応じて、早めに間引きする。
- 5) 定植した苗については、過湿圃場では接地面から白絹病が発生するため、表土が過湿にならないよう心掛ける。
- 6) 県内の冬季の日照は、トルコギキョウの生育にとって十分でないため、トンネル被覆等を行っている場合は、光が十分あたるように留意する。

### 4 スイセンの開花後の管理

- 1) 露地の栽培で12月にそさい5号を20g/m<sup>2</sup>施用した圃場には、2月上旬にそさい5号を20g/m<sup>2</sup>施肥する。
- 2) 12月に施肥を行ってない圃場では、消雪後、2月上旬にそさい5号を40g/m<sup>2</sup>施肥する。水が入る圃場では、排水対策を徹底し、2月上旬と中旬に分肥してもよい。畝間に水が停滞しないように、排水対策もしっかり行う。
- 3) ハウス栽培で12月にそさい5号を20g/m<sup>2</sup>を施用した圃場には、切り花採花後の球根を肥大させるため、そさい5号を2月上旬までに20g/m<sup>2</sup>施肥する。12月に施肥を行ってない圃場では、2月上旬までにそさい5号を40g/m<sup>2</sup>施肥する。ハウスの温度管理は、10℃～25℃の範囲で管理する。

## 5 福井ユリの生育初期管理

- 1) 芽立ちが揃った頃に、フラワーネットを張る。フラワーネットは茎の伸長にあわせて、草丈の半分の位置になるように引き上げる。特に、リリブライトレッドは草丈が伸びやすいため、必ずネットを張る。茎が曲がらないように、できれば二段にネットを張る。
- 2) 生育初期の乾燥は、草丈に影響するため、十分灌水する。2月下旬以降は、葉枯病の発生があるため、施設内が過湿にならないように換気し、ダコニール1000等予防剤の散布を行う。
- 3) 追肥は2月下旬から生育を見ながら、OKF 1の1000倍を適宜施用する。